

LOBO 調査

早期景気観測

3月分 日商調査日 3月8日～18日
当所調査日 3月8日～22日

LOBO調査とは

全国各地の商工会議所が参加して、日本商工会議所が実施する全国規模の早期景気観測調査。当所ではさらに、会員企業40社の皆さまにも調査へのご協力をいただき、より地域に根差した調査を実施。

日商調査

3月の全産業DI ▲32・7
(前月比+1・2ポイント)

新型コロナウイルス感染拡大の影響に伴う巣ごもり需要による日用品などの売上が増加した小売業や、飲食料品関連の卸売業の業況感が改善した。

一方、18都道府県におけるまん延防止等重点措置が延長され、営業制限やイベントの中止が続く中、観光関連や対面サービス業を中心に売上が低迷するほか、製造業では、慢性化する部品供給制約に伴う生産調整の影響を受けた自動車関連の動きが押し下げ要因となっている。

業種を問わず、原油価格を含む資源・資材価格原材料費の高騰などのコスト増加が収益回復の足かせとなっており、中小企業の景況感は、持ち直しの動きがみられるものの、力強さを欠く。

中小企業の景況感

先行き

先行き見通しDIは▲28・8(3月比+3・9ポイント)。

まん延防止等重点措置の全面解除に伴う客足や消費の回復、国・自治体による需要喚起策への期待感が伺える。一方、部品の供給制約、資源価格の高騰が継続し、コスト増加分の価格転嫁が遅れる中、ウクライナ情勢悪化に伴い、円安やコスト増がさらに加速するとの懸念から警戒感が強まり、中小企業の先行きは慎重な見方が続く。

「関東ブロックの業況についてのコメント」

ウクライナ情勢の悪化により、保存・支援物資として重宝されるツナ缶詰の需要が高まっている(水産食料品製造業)。

仕入価格の大幅増加のため、販売価格の値上げを交渉中である。原油価格や銅価格の上昇および円安の進行など、先行きが読めない状況が続いている(機械器具卸売業)。

当所調査

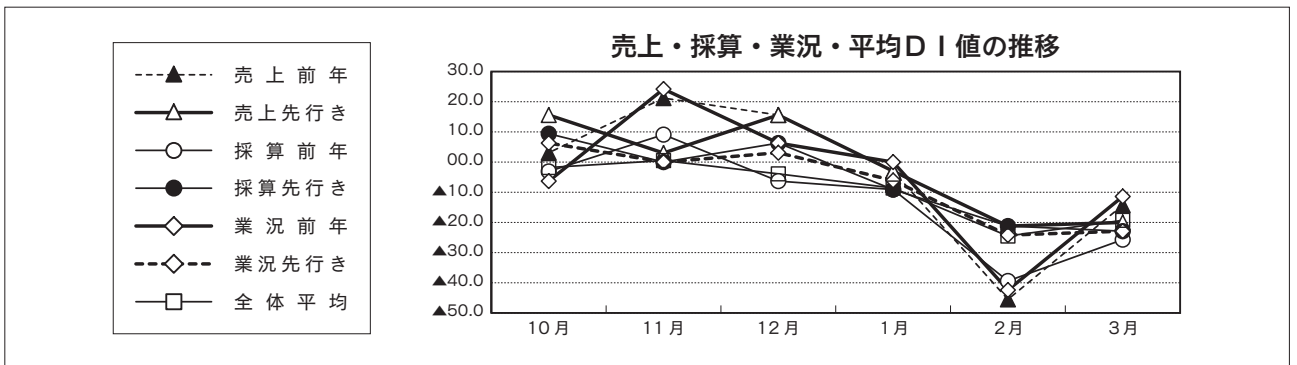
「全体的に回復傾向、しかし物価上昇により先行き不透明」

全体平均DIは▲19・3で前月に比べ14・4ポイントの好転。項目別では、売上前年+31・2ポイント、業況前年+31・0ポイントの好転が見られた。

一方、仕入前年▲14・1ポイント、仕入先行き▲8・5ポイントの悪化もみられた。コメントには、「材料の仕入れ価格がかなり上昇している(ガラス・同製品製造業)」、「原油や製品価格、物流費の高騰により販売価格の見直しを迫られている(家具・建具卸売業)」といった、「まん延防止等重点措置」は解除されたものの原材料価格高騰に先行きの不安を感じる声が多く寄せられた。

(全産業) 水戸商工会議所会員企業LOBO調査(DI値推移) (サンプル数40社)

項目	令和3年				令和4年		
	3月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
売上前年	▲56.0	3.1	21.2	15.6	▲3.0	▲45.5	▲14.3
売上先行き	▲40.0	15.6	3.0	15.6	▲3.0	▲21.2	▲20.0
採算前年	▲48.0	▲3.1	9.1	▲6.3	▲9.1	▲39.4	▲25.7
採算先行き	▲44.0	9.4	0.0	6.3	▲9.1	▲21.2	▲22.9
仕入前年	▲36.0	▲53.1	▲51.5	▲65.6	▲51.5	▲54.5	▲68.6
仕入先行き	▲48.0	▲46.9	▲57.6	▲56.3	▲48.5	▲51.5	▲60.0
社員前年	16.0	18.8	21.2	18.8	15.2	15.2	17.1
社員先行き	8.0	25.0	21.2	18.8	27.3	15.2	20.0
業況前年	▲52.0	▲6.3	24.2	6.3	0.0	▲42.4	▲11.4
業況先行き	▲48.0	6.3	0.0	3.1	▲6.1	▲24.2	▲22.9
資金前年	▲24.0	0.0	15.2	▲6.3	▲9.1	▲18.2	▲11.4
資金先行き	▲32.0	9.4	0.0	3.1	▲6.1	▲6.1	▲11.4
全体平均	▲33.7	▲1.8	0.5	▲3.9	▲8.6	▲24.5	▲19.3



※DI値(景況判断指数) = (増加・好転等の回答数 - 減少・悪化等の回答数) / 全回答数 × 100。ゼロを基準として、プラス値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナス値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものでなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりや意味するもの。